

スコレ・マスターズ通信

第27号
平成20年7月29日

平成20年度 会員総会・宿泊研修 全国のマスターズ会員が箱根に集いました



去る6月14～15日、平成20年度マスターズ宿泊研修及び会員総会が箱根湯本ホテルで開催され、全国から44名(初参加3名)の会員が集いました。

宿泊研修は永池会長の講話、心身開発トレーニング、懇親会、早朝研修、グループ討論など多彩なメニューで構成され、年代・職業を超えた相互交流の場であり、また、「スコレの哲学」を学ぶ格好の機会となっています。本号ではその宿泊研修の様相を順を追って、紹介して参ります。ご参加になれなかった方々にも宿泊研修の迫力、雰囲気味わっていただければ幸いです。



心身開発トレーニング



研修の第一部はリラクゼーション禅です。ホテルから100枚の座布団を借り脚を組みました。薄い座布団でしたので2枚を二つ折りにして

も座布としては低すぎるくらいです。初めての方や不慣れな方は、個別指導を受けながら挑戦。

首都圏以外の方は、年一回だけの研修体験です。左右の肩に当てられる警策の痛さを味わいながら、30分間の瞑想に入りました。全員が瞑想に入った姿は壮観です。皆さん深い呼吸を体感し、満足そうな様子でした。

第二部は、ボイストレーニング。久しぶりでとまどう人がいましたが、ホテルの周りは山林なので、遠慮なく大声を出して汗をかきました。「気持ちよくリフレッシュしました」「発声練習、最高です、迫力を感じました」「地方でももっと受講したい」等々、期待の大きさが伺える感想がありました。



懇親会

部屋別研修で胸襟を開き、温泉につかったあと、お楽しみの「懇親会」が始まりました。永池会長の「貴重なコミュニケーションの場として、大いに語り合って欲しい」とのご挨拶、田中常務理事の乾杯で開宴。



宴たけなわとなった頃、司会者から指名された方々の「一言ご挨拶」が始まりました。まず、初参加の方々、さらにマスターズ通信編集担当者、すこれ誌「リレーエッセー」寄稿者、東海中部地区及び近畿地区の活躍者、と入れ替わりの発言がユーモアたっぷりに続きました。懇談の時間に移ると、今度は各所で賑やかな会話の花が咲きました。

懇親会後半は、早朝研修受賞者のコメントが中心です。まさに「夜の演壇」です。そして、マスターズ顧問小川本部長の懇親会全体をまとめた挨拶が続きました。



長久保副代表幹事

最後の締めは永池会長の熱唱です。その余韻に浸りながら長久保副代表幹事が締め、賑やかな懇親会がお開きとなりました。



早朝研修



稲川武美氏

【瞑想・演壇】

翌朝は、5時半から男性だけの早朝研修です。「生命への覚醒」を村下顧問の発声で唱和の後、瞑想を行い、続けて前もって指名されていた岩井一弘(中国)、稲川武美(東海)、菊池啓(町田・相模)、川田昌孝(栃木)の各氏が演壇に立ち、日ごろの実践による成果の発表がありました。

【会長講話】

続いて永池会長池から下記のような講話がありました。



菊池 啓氏

哲学者カントに「勇気がなかったら勇気があるように振舞え」という言葉があること、また自分も「不器用な人間だ」と公言していたが、ある時「一度に何でもこなせる人間になるよう努力せよ」と言われたこと、そして

形から入り実行することを心がけ、継続することでそれが習慣になっていくことを身をもって体験した。新しい習慣を加えそれを3年、5年、10年と続けることで人間は革命的に変わる。生活の中の一つ一つを見直し、良い方向へ向けることで人生が変わると言ってよい。若い人はオールオアナッシングになりがち



だが、何ごとかを成し遂げるといふ経験を持つと、継続することが力だと理解できることになる。

道は毎日の生活の中にある。料理

人は一度切るときに包丁を必ずふき取る。イチローも用具の整備を日々やっていると聞いている。こういう作業が良い結果に繋がる。

人への言い訳はできても自分へ言い訳をするのでは寂しいことと思う。是非納得のできる良い生活を今日一日、今日一日と続けていただきたいと思う。

【広間座談】

早朝研修最後は広間座談です。広間座談では日常生活の中で感じている疑問について会長への質問や確認があり、それぞれに答えをいただきました。



分科会



朝食後の分科会では5班に分かれて「親子の絆」「夫婦、家庭の絆」の視点から討議しました。分科会での討議は各氏の経験や反省、今後の見通しやあるべき道筋がそれぞれに開陳され貴重な共同学習の場となりました。分科会は結論を出す場ではありません。それぞれが感ずる所のものを持ち帰り、実生活に活かしていくものです。



1時間半の討議の後、それぞれの班から40歳代の方が選ばれ、各班の討議内容について総括発表がありました。

発表は1班・荒川浩(東海)、2班・柳町俊夫(八王子)、3班・太田孝裕(長野)、4班・平田保則(大阪)、5班・稲川武美(東海)の各氏が行いました。(写真は荒川氏)



会員総会

6月14日(日)10時20分から第7回会員総会が会員44名と本部から永池会長、田中常務、小川本部長の出席を得て開催されました。金井事務局長の開会宣言に続き、三橋代表幹事を議長に選出後、議事に入りました。

下記第1号議案から第3号議案までがそれぞれ賛成多数で原案どおり議決されました。

【平成19年度事業報告】(1号議案)

主な項目は下記のとおりです。

期首(昨年4月1日)から期末(本年3月31日)までに

会員数が60名増加し360名となった。

「危機管理・対応事例集」の第1分冊の発行がなれ、第2分冊を20年度宿泊研修時まで発行する。(本研修中に配布されました。)

本部でのマスターズ研修の内容改定検討、新年度から新方式を導入することとした。

新「入会案内」を作成した。

新自己開発システムを研究会で開発検討した。

首都圏(講師：中島孝志氏)と岐阜(講師：永池会長)での生きがい講座を開催した。

第7回川上杯懇親ゴルフ会を開催した。

木曾御嶽山・新滝「滝行」を実施した。

【平成20年度事業計画】(2号議案)

本年度事業計画は下記のとおりです。

【活動方針】

マスターズは昨年までの5年間に、組織の拡大強化、運営体制づくり、学習内容の充実、の三つをバランスよく発展させるべく鋭意努力してきました。

独創的なIT構築や機関紙の発行に始まり、最近では冊子の発行まで手掛けた種々の活動内容は次第に充実してきており、マスターズに対する期待も年々高まってきていることを実感できるようになりました。

満6年目となる今年度は、創立時に設けた「マスターズ行動規範」5か条の理念に従って心を新たに、会員による日々の「学習と実践」をベースに「鮮度の良いマスターズ」の構築を目指して、さらなる前進を図りたいと思います。

具体的には「マスターズ行動規範」5か条を会員の活動原則として、下記事項に取組みます。

【個別事項】

1. 総務・組織関係

新規会員の加入強化(20年度目標期末会員数450名)と全国地区組織のブロック化を一層推進
 会員名簿の整備(ブロック単位の区分替えは完了)
 外部組織との連携(但し、会長指導に基づくもの)
 地区交流会の更なる拡大(現在4会場 目標6会場)
 各種プロジェクトの推進(危機管理研究会、自己開発システム研究会他)

2. 研修関係

マスターズ研修の受講者増強
 生きがい講座の実施(首都圏、東海中部地区の他、新規開催地を発掘する)
 宿泊研修の実施(20年6月)
 20年度講師養成講座の継続実施(4月から10名受講中)
 スコール活動への積極的な参加(早朝研修、スクール各種講座、スコール総会、収集・募金のボランティア活動)
 スコールグレイセスとの連携強化(長久保副代表の講師派遣)
 外部研修への参加(原則本部指導による)
 自主学习教材の開発(「危機管理・対応事例集3」および「自己開発ノート」)



総会風景

3. 広報関係
 マスターズ通信の発行(前年同様、隔月発行を目指す)
 地方会員の活動参加ツールの充実と啓発(相互交流の場づくり)

改訂版「入会案内」の有効活用

メールニュース、ウェブパティオ、ブログ等の内容充実(会員参加型を目指す)

月間「すこ-れ」誌への記事提供(マスターズの存在感を啓発する)

4. その他

第8回川上杯ゴルフコンペの開催
 木曾・御嶽山滝行の実施

【役員改選の件】(3号議案)

3号議案では霜田千代松氏が企画推進委員へ新たに任命され、その他の役員に変更はありませんでした。

各地区・ブロック体制と責任者については下記の一覧表のとおり決定されました。

地区・ブロック体制と責任者一覧				
地区	地区リーダー	ブロック	ブロックリーダー	サブリーダー
北海道		苫小牧	中澤利治	
北関東	川田昌孝	栃木	川田昌孝	
		茨城	石塚清吾	
		埼玉	山口哲生	
八王子多摩	小俣富雄	八王子	小俣富雄	
		多摩	金井 繁	
中央	大島 尚	町田相模	藤田和弘	
		青葉都筑	桑折能彦	霜田千代松
京 浜	長久保定夫	城 西	長久保定夫	
		城 南	岡本一誠	
		神奈川	三橋克興	岡本一誠
北 陸	近藤 悠	石 川	近藤 悠	
		富 山	笹井喜郎	
		長 野	太田孝裕	川島伊佐雄
東海中部	小寺房征			
近 畿	伊藤範昌	大阪兵庫	細見周造	
		京都滋賀	田中靖彦	
中 国	横田将良			

最後に来賓挨拶として、永池会長のスコール協会創立30周年へ向けての決意とマスターズへの期待の言葉をいただき閉会いたしました。



事務局 便り

当面の行事予定

8月~9月： 上期マスターズ研修
 (本部研修室)
 9月13~15日： 滝行
 (木曾御嶽山・新滝)
 10月~3月： 下期マスターズ研修
 (本部研修室)
 9月下旬： マスターズ通信第28号発行
 (広報委員会)
 10月中旬： 第8回川上杯懇親ゴルフ
 (場所未定)
 11月下旬： マスターズ通信第29号発行
 (広報委員会)
 12月13日 首都圏地区交流会
 (町田エルシー)

投稿コーナー

宿泊研修に参加して

大阪・兵庫ブロック 平田 保則



平成16年、17年に続き、今回は3年ぶりに3回目の宿泊研修に参加することができました。18年、19年と2回欠席してしまっていたので、1年前から今回は絶対参加すると心にきめ、6月の第2、

第3の週末にマスターズの宿泊研修の予定を入れておきました。今まで過去2回のこのマスターズ宿泊研修で、たくさんのまなびを得ることが出来ました。

1泊2日の短い宿泊研修(実質22時間)でしたが、「自分でも、たくさん学んで帰るんだ」を目標に参加し、たくさんのまなびを得ることが出来ました。

懇親会では、たくさんの方とお話しができ、交流を深めることが出来ました。一次会で呑み過ぎ、二次会に参加することが出来なかったことが、非常に残念でした。

早朝研修での永池会長のご講話の中で「勇気がなければ、勇気があるがごとくふるまえ」「出来ないと言わない。出来ないと言うことは、言い訳をしている」のお話しに納得し、「よい習慣を身につけ、それを性格となしていく」の言葉に感動しました。

広間座談では、仕事場での自分の立場・近況を報告させていただくことが出来ました。

また部屋別分科会では、家族の絆、親子の絆をテーマにみなさんの貴重な体験談をお伺いしました。父親として、必死で子どもと向き合い、体を張って苦境を克服・改善していったという話をお伺いし、「自分もそういう父親にならなければ…」とつくづく思いました。

分科会グループ発表で、発表は40代の人という言葉にドキッと、どうか当たらないようにと思っていると指名され、早朝研修での「勇気がなければ、勇気があるがごとくふるまえ」「出来ないと言わない。出来ないと言うことは、言い訳をしている」が頭をよぎり、ついつい発表を引き受けてしまいました。皆さんの体験談を書き止め、まとめ、そして3分の発表。緊張で、額と背中に汗をし、書きとめた原稿と時間と自分との格闘をすること4分。1分オーバーで終了。まったく何をしゃべったか覚えていない状況でした。これもよい経験でした。資料として「夫に言われてうれしかった一言」「夫に言われて傷ついた一言」を、いただきました。そして帰宅後「うれしかった一言」を試してみてもびっくり……。

たくさんの諸先輩方の貴重な体験談をお伺いし、改めて自分は苦労がない、しあわせ者であることを感じました。これも妻がスコレと出会い、妻が学び続けたおかげ、私自身もスコレを学んでいるおかげであると感じました。近い将来必ず訪れるであ

ろう、いろんな危機を、スコレを学んでいるおかげで、最小限にくい止め、乗りきれよう、引き続きまなびを続けてまいります。来年も皆さん是非またお会いしましょう。

宿泊研修に2回目の参加

中国地区 坂田 淳



昨年の初参加に続いて、今年も気持ちよく参加させて頂き有難う御座いました。2回目のためか、実行委員の方々をはじめ参加者のお顔を拝見しただけで、

スムーズに溶け込めたように思います。

到着後すぐ行われる心身開発トレーニングは、多少浮かれ気味の気分を一新するには効果てきめんの研修で、禅の静寂感、全身発声のボイストレーニングを終えた後の心地良い達成感、その後のスケジュールを円滑にこなして行くための助走となり、話し下手な者でも心が開いてきます。そして入浴タイムへ。爽やかな初夏の箱根を満喫できるこのひと時が参加者の貴重な語らいの場となり、そのまま懇親会へ突入。さらに会長の本音トークが聞けた2次会が終わり、久々に充実した1日を過ごせました。本当に感謝です。

翌日の早朝研修では、同地区からIさんが演壇に立たれ一番声が出ていたのが印象的でした。いよいよメイン研修である分科会、今年は親子・夫婦・家族の絆がテーマでしたが、昨年の家計・経済とリンクしており、皆様の御意見を我家に置き換えて、暫し見つめ直す時間でした。危機管理意識をベースに据えて生きると言うよりは生き抜く！気概が求められます。会長が開講挨拶で言われた「時代の変化に翻弄されない、本物の生き方が求められる」とのお話が心に残っています。

このような学び・遊びが凝縮された交流の場は、他ではなかなか味わえない体験であり、「男だけのスコレ」を肌で感じる二日間だったと思います。これからもスコレ流生活の要所となる、マスターズ宿泊研修と新春寿交禮への参加を継続して行きます。

編集後記

「何事も学びと心得」という道標の言葉には魔法にも似た力があると感じています。仕事や生活で失敗や不安に遭遇したとき、姿勢を正して、早朝研修で唱和する勢いそのままに、心の中で思い切り「何事も学びと心得！」と言い聞かせてみます。これで、早朝研修の雰囲気がよくえり、心が落ち着くから不思議です。(白石 英樹)

編集：社団法人 スコレ家庭教育振興協会
スコレ・マスターズ 広報委員会

発行人：小俣富雄
〒194-0013 東京都町田市原町田4-7-12
TEL：042-728-7948
<http://www.schole-masters.org>